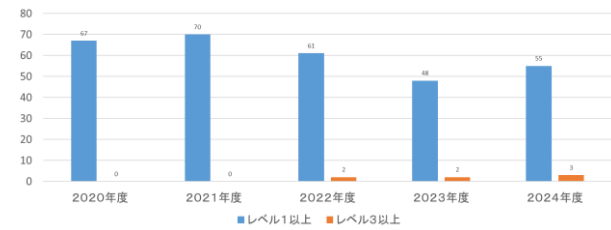
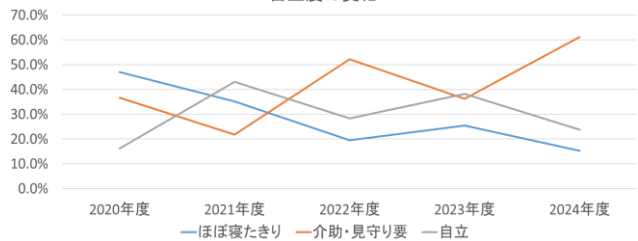


演題名	排泄に起因する転倒転落の改善		
施設名	いわき湯本病院	ふりがな 発表者(職種)	すずき ともみ 鈴木 智美 (看護師)
ふりがな チーム名	てんとうをふせぎたい 転倒を防ぎ隊		
分類	②安全の向上をめざすもの		
取り組み種別	問題解決型		
改善しようとした 問題課題	転棟に起因とする転倒転落		
改善の指標と その目標値	(指 標) 転倒に起因する転倒転落の件数 (目標値) 0		
実施した対策	1 運動機能変化時はカンファレンスにて排泄手段の変更を行い看護計画に反映 2 ポータブルトイレの使用基準を見直し、介助でのポータブルトイレの使用をやめトイレへの誘導を行う 3 排泄パターンに合わせた排泄誘導・リハビリ予定の立案を行う 4 部屋毎の担当看護師制とし5回以内のナースコール対応を行う 5 ピクトグラムを活用し誰でも介助方法が分るように 6 対象患者は消灯前には排泄誘導してから入眠を促す		
改善指標の 対策実施 前後の変化	(実施前) 3.3 (実施後) 0		
歯止めと 標準化	ピクトグラムを排泄マニュアルに追加し排泄委員会で見直しを行っていく 就寝前の排泄誘導を看護基準に追加する 排泄に起因したインシデントが発生した場合はカンファレンスで振り返りを行う 運動機能変化時のカンファレンスの実施をリスク委員が確認する 排泄パターンが看護計画に反映されているか記録監査で確認する ポータブルトイレの使用状況を排泄委員が確認する リハビリの予定に排泄パターンが考慮されているか確認する		
活動の種類 ※複数選択可	②複数の職場が連携した活動	チーム メンバー (職種)	1 鈴木 智美 看護師 2 渡邊 千晴 看護師 3 佐藤 智恵子 看護師 4 四家 里枝 介護職 5 矢内 遥 理学療法士 6 渡邊 菜月 作業療法士 7 鈴木 真由美 リスクマネージャー
活動の場 ※複数選択可	①診療部門		
活動期間	令和6年7月 ～ 令和7年3月		
リーダー名 (職種)	鈴木 智美 (看護師)		
活動回数	13 回		

【現状把握】 2階病棟転落転落インシデントの推移



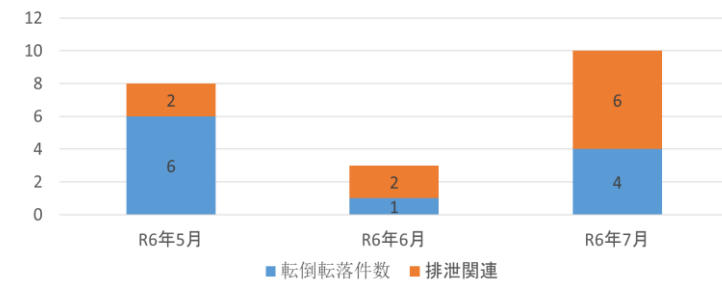
自立度の変化



過去5年間で転倒転落インシデントは減少傾向にあるがレベル3以上のインシデントが増加している

自立、ほぼ寝たきりの患者が減少し介護・見守りの患者が増加している

排泄に起因する転倒転落インシデントの割合

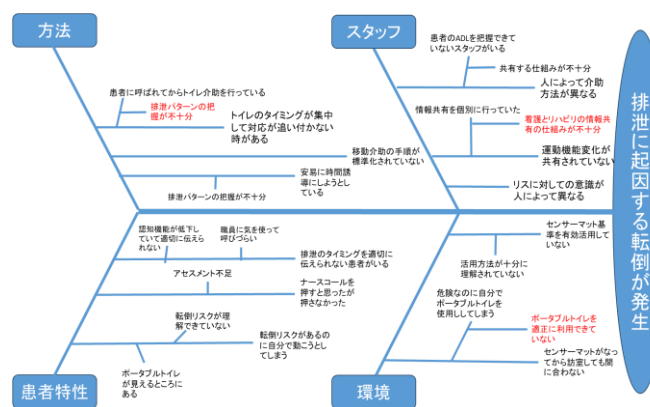


月平均3.3件の排泄に起因する転倒転落が発生している

【目標設定】

いつまでに	2025年1月
何を	排泄に起因する転倒転落インシデントレベル1以上件数を
どうする	月平均0件以内にする

【要因解析】



重要要因	検証方法	結果から分かったこと	判定
① 患者のADL変化を共有する仕組みが不十分	アンケート結果	・入院時計画立案時にADL評価が十分でなく排泄時の転倒リスクが見逃されている ・ADL変化時に計画が見直されていない	○
② ポータブルトイレが適正に利用できていない	インシデントレポートの分析	介助を前提にポータブルトイレを設置するがスタッフが呼ばずに転倒につながっているケースがみられる	○
③ 排泄パターンの把握が不十分	アンケート結果	排泄パターンが業務に活かされていない	○

【対策の立案と実施】

◎5点 ○4点 △2点 10点以上を採択

排泄に起因する転倒転落インシデントを減少する	重要要因	一次対策	二次対策	三次対策	重要性	現実性	効果	点数	判定
	看護とリハビリで患者のADL変化を共有する仕組みが不十分	ADL変化の共有を個人で行うのではなく全体に共有する	全てのスタッフが同じように看護計画を立案する	運動機能変化時はカンファレンスで共有し排泄手段の変更を行う	◎	◎	◎	15	採
	ポータブルトイレが適正に利用できていない	ポータブルトイレの利用基準を見直す	ポータブルトイレの介助での使用は行わない	ポータブルトイレを使用せずトイレへの誘導を行う	◎	○	◎	14	採
	排泄パターンの把握が不十分	患者から呼ばれる前に排泄パターンを活用して対応する	排泄パターンの見極めと情報共有を行う	排泄パターンに合わせた排泄誘導を行う	◎	○	◎	14	採
				排泄パターンに合わせたリハビリの予定を立案する	○	◎	○	13	採

【対策の立案と実施】

	実施事項	誰が	いつ	どこで	なぜ	どのように
1	運動機能変化時はカンファレンスで共有し排泄手段の変更を行う	看護師・リハビリスタッフ	運動機能変化時	病棟	運動機能の変化を全体で共有し計画を立案するため	カンファレンスを行い必要に応じて排泄手段を変更し看護計画を見直す
2	日中はポータブルトイレを使用せずトイレへの誘導を行う	看護師・CW・リハスタッフ	日中	病室	安全に排泄動作を行うために	ポータブルトイレの使用基準を見直す
3	排泄パターンに合わせた排泄誘導を行う	看護師・CW	排泄タイミング	病室	患者に呼ばれる前に排泄の介助をするため	排泄パターンに合わせて排泄タイミングを把握してトイレ誘導を行う
4	排泄パターンに合わせてリハビリの予定を立案する	リハビリスタッフ	リハビリ実施時	病棟	排泄の心配をせずにリハビリに集中するために	排泄タイミングに合わせてリハビリを予定しトイレでの排泄を行う

【運動機能変化時は朝のショートミーティングで共有
必要に応じてカンファレンスで排泄手段の変更】



➤ 一対一の情報共有だけでなく全体に周知
➤ カンファレンスにて計画の見直しを行う



【排泄パターンに合わせた排泄誘導を行う】



➤ 患者が動き出す前に声をかけて誘導を行えるように



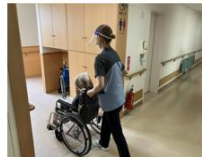
【ポータブルトイレの利用基準の見直し】

- ・10分以上の座位保持ができる。
- ・片手支持での立位保持が1分以上可能
- ・方向転換が自立して可能
- ・排泄後にナースコールが確実にできる

ポータブルトイレは基本的に撤去

- ポータブルトイレは退院後使用予定の方の自立使用のみ
- その他はトイレへ誘導

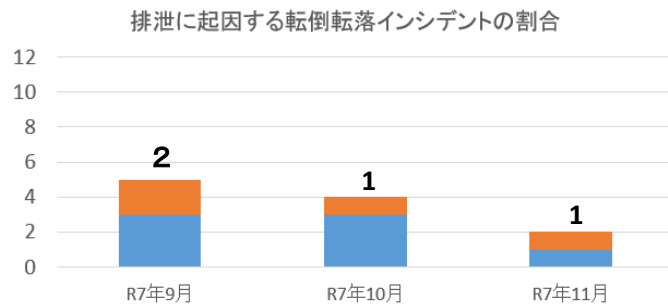
【排泄パターンに合わせてリハビリの予定を立案】



➤ リハビリも排泄パターンを活かした介入を実施

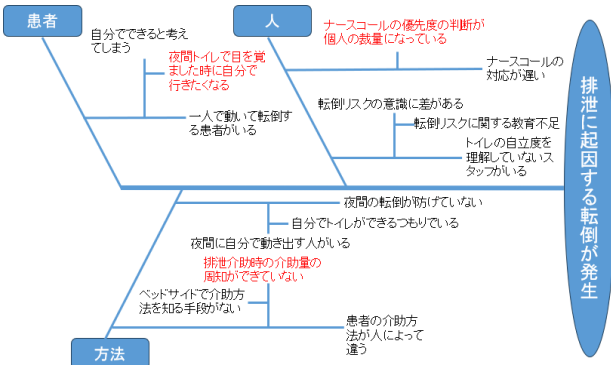
【効果の確認】中間評価

中間評価：2025年9月～11月



減少したが0には至らず

【要因解析】



重要要因	検証方法	結果から分かったこと	判定
④ ナースコールの優先度の判断が個人の数になっている	アンケート結果 ナースコール対応回数 の計測	ナースコール対応まで10回以上コールが鳴り続けることが多い ナースコール対応看護師が同じ看護師のことが多い ナースコール対応のためのPHSを持たないことがある ナースコール対応のために受持ち看護師を探すことがある	○
⑤ 排泄介助時の介助量の周知ができていない	アンケート結果	介助方法は電子カルテにしか記載されておらず病棟で確認できる手段がなかった	○
⑥ 夜間トイレで目を覚ました時に自分で行きたくなくなる	インシデントレポート	期間中の排泄に起因する転倒は全件が一人でトイレに行こうとしたことが原因 5件中3件が夜間時間に発生している	○

【対策の立案と実施】

排泄に起因する転倒転落インシデントを減少する	重要要因	一次対策	二次対策	三次対策	重要性	現実性	効果	点数	判定
	ナースコール対応が遅い	ナースコール対応についての指導	速やかなナースコール対応	部屋ごとと担当制の変更 日中の記録は各担当の病室で行う	◎	◎	◎	15	採
	トイレ動作自立度に対するスタッフの共通理解が不足している	安静度や自立度変化を各スタッフが共有できるようにする	朝のミーティングやカンファレンスでの周知と情報共有	トイレ誘導患者の援助方法をピクトグラムで表示	◎	◎	◎	15	採
	夜間トイレで目を覚ました時に自分でに行きたくなくなる	夜間のトイレに一人で行くのを防ぐ	夜間の覚醒を減らしタイミングを把握する	対象患者は全員22時までに排泄誘導してから就寝する	◎	○	◎	13	採

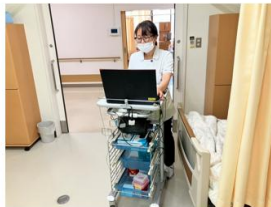
	実施事項	誰が	いつ	どこで	なぜ	どのように
5	速やかなナースコール対応	受持ち看護師	ナースコールが鳴った時	病室	5回以内の対応を行うため 同じスタッフがいつもナースコール対応をすることがないようにするため	病室ごとの担当看護師制とする 病室や病室近くにいることでスムーズなナースコール対応ができる
6	トイレ誘導患者の援助方法をピクトグラムで表示	受持ち看護師	入院時ADL変化時	病室	各患者のトイレ誘導とトイレ動作方法を共有するため	トイレ誘導が必要な患者に対してピクトグラムでの表示をして分かるようにする
7	対象患者は全員22時までに排泄誘導してから就寝する	看護師・CW	夜勤帯	病室	夜間の排泄タイミングを合わせる	就寝前に一度トイレに誘導し、その後はラウンドで覚醒していたら排泄誘導する

【担当看護師制への変更】

- 担当看護師・副担当看護師・CWを病室ごとの担当とする
- 週間勤務表での担当チームの提示

【スムーズなナースコール対応】

- 受持ち看護師は看護記録など担当の病室で実施する
- 担当病室の対応は自分自身で行うことを原則とする



【トイレ誘導とトイレ動作の方法】



ベッドサイドにピクトグラムを表示することで、トイレ誘導やトイレ動作の援助方法が分かるようにした

【対象患者は22時までに排泄誘導してから就寝する】

- 認知機能、運動機能、普段の行動から注意が必要な患者を選出
- 就寝前に排泄誘導を行い次に覚醒するタイミングを把握

【夜間覚醒しているときは排泄の誘導を行う】

- ラウンド時に覚醒している場合は排泄誘導してから就寝を促す

【効果の確認】無形効果

- 入院時・状態変化時のアセスメントスケール使用と計画の見直しができるようになった
- ナースコール5回以内での対応ができるようになった
- センサーマット使用基準・センサーマット解除基準に沿って正しく評価することができるようになった

【効果の確認】

発生0件 目標達成
最終評価：2025年1月

【効果の確認】波及効果



【標準化と管理の定着】

【反省と今後の進め方】

	実施項目	誰が	いつ	どこで	なぜ	どのように
標準化	トイレ誘導患者の援助方法をピクトグラムで表示	排泄委員	1回/半年	病棟	ピクトグラムの使用状況の確認	排泄マニュアルに追加し見直しを行う
	就寝前の排泄誘導と夜間覚醒時の対応の統一	看護部長	1回/1年	病棟	排泄の誘導を定着するために	看護基準を変更し見直しを行う
教育	排泄行動に絡んだインシデントの振り返り	リスク委員	インシデント発生時	スタッフトレーニング	インシデント要因を深めるため	カンファレンス時などのインシデント要因を深めるためにKYTを行う
	運動機能変化時のカンファレンスを併用看護計画の更新に反映しているか確認	リスク委員	1回/月	スタッフトレーニング	計画の変更を確認するため	運動機能変化時のカンファレンスが適切に行われているか確認
管理	排泄パターンの把握が看護計画に反映されているか確認	看護部長・主治・記録委員	1回/月	スタッフトレーニング	実施状況を確認するため	他看護室において計画の確認を行う
	ポータブルトイレの使用状況を確認	排泄委員	1回/月	病棟	ポータブルトイレの使用状況を確認する	排泄ラウンド時にポータブルトイレの使用状況を確認する
	排泄パターンに合わせリハビリの予定を立案する	リハビリリーダー	1回/月	スタッフトレーニング	スケジュールの確認	リハ部門においてリハビリの予定に排泄パターンが取り入れられているか確認

	良かった点	悪かった点	今後の課題
テーマの選定	排泄に起因する転倒転落に対する意識の強化ができた	なし	対策の継続
現状の把握	地域包括ケア病棟における転倒転落に対する現状を把握することができた	夜間の転倒に着目するまでに時間がかった	転倒転落の要因分析の継続
目標設定	転倒転落を減少させようという意識を可視化することができた	スタッフ全員に目標値を周知するのに時間がかかってしまった	排泄に起因する転倒転落だけでなく要因分析を行っていくことでさらに件数を減少させる
要因解析	特定要因の作成により普段見えてこない真の要因を導き出すことができた	なし	今後も転倒転落の要因を分析していく
対策の立案と実施	要因からの対策を立案することができた	対策の周知に時間がかった	対策の継続
効果の確認	目標が明確であったため評価がしやすかった	なし	目標達成のための対策の継続
標準化と管理の定着	排泄行動に対する意識の向上につながった	なし	速やかなナースコール対応の継続